

令和 8 年 8 月 28 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

大阪府		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
大阪教育大学附属高等学校平野校舎	国立大学法人大阪教育大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
大阪教育大学 附属高等学校平野校舎	https://www.hirano-h.oku.ed.jp/

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
大阪教育大学 附属高等学校平野校舎	https://www.hirano-h.oku.ed.jp/evaluation	https://www.hirano-h.oku.ed.jp/evaluation

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している

・実施していない

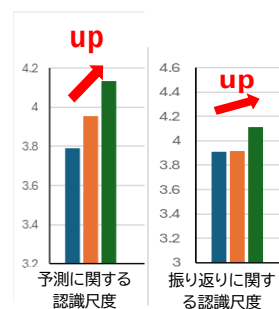
<特記事項>

特になし

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

- ・「探究活動」を軸に据えた学校教育活動の実現のため、「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と「教科・科目(学校設定教科を含む)」や「特別活動」の連携を強化した。
- ・「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の実践により、生徒の校外での発表件数が増加し、また、連携校の生徒と協働しながら生徒主体で「高校生国際会議」など様々な行事が企画・運営され、活動の幅が広がった。
- ・生徒の変容を調査するため、本学アセスメントグループが開発したAAR調査※を実施した。その結果、相対的に、生徒の「予測」「振り返り」の値(平均値)において、学年進行に伴う向上効果が統計学的に有意に表れていることが確認できた(※AAR調査:OECD2030で示されていたラーニングコンパスで示された3因子(予測(Anticipation)、行動(Action)、振り返り(Reflection)について分析するもの)に関する認識尺度を測定したもの)。
- ・本校では、「教科・科目」における探究活動の実践も目標の一つとしている。全教員が「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の指導を担当し学習ツールを共有する中で、各教科・科目での探究活動の導入・実施が進められている。



(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例による「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と、学校設定教科を含む「教科・科目」や「特別活動」を連携させて実施することにより、グローバルな視点で社会を捉え、社会課題の解決に向けて行動する力が伸長している。特に、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、課題発見力、実践力などの伸長がみられる。また、社会課題に関する探究やそれに関連する教科・科目の学習を継続する中で、多様性理解や他者理解が深まり、論理的思考力や批判的思考力と新しい社会を創造する意欲と行動力が高まっている。卒業後、大学で学びたい事柄を明確にもつ生徒や、引き続き社会課題等を追究しようとする生徒が増加している。

4. 課題の改善のための取組の方向性

明らかになっている課題と、改善に向けた取組は以下のとおりである。

- ①年間カリキュラムと学習ツール等の点検と改善により、特に、「グローバル探究Ⅱ」の充実を一層図り、その成果を発信することが課題である。そのため、現在進めている「グローバル探究Ⅰ」も含めた学習内容、指導体制、学習ツールの検討を継続し、来年度の授業計画を改善していく。
- ②「教科・科目における探究的な学び」の実践の充実を一層図り、その成果を発信することが課題である。これまで、各教科・科目で、探究的な学びを組み入れた授業開発に取り組み、全教員で共有してきた。来年度以降もその取組を継続し、成果を研究授業等によって公開していく。